

## 気力と体力の限界に挑戦

### 北海道内自転車旅行

今月の表紙の人は、夏休み期間中に、北海道内を自転車で旅行した区内の高校二年生、平川雄一さん（一七）です。襟裳岬、納沙布岬や宗谷岬に到達するなど、日高地方を皮切りに、道東、道北を主に海岸に沿って走破。走行距離は、二週間で千四百キロメートル以上にも及びました。

平川さんは、学校の部活動で、硬式テニス部に所属するなど、普段からスポーツに親しんでいます。夏休みをどう過ごそうかと考えていたところ、両親から「何かに打ち込んで、精神力を鍛えなさい。それには、北海道内を自転車で旅行してみてもいい」という、提案がありました。



平川さんの自転車。このタイプの自転車で旅行をする人は、「ママチャリダー」と呼ばれ、自転車旅行者の中でも、一目置かれるそうです

平川さんは、そんな大変な挑戦をする決心がつかず、一度は出発したものの、挫折してしまいました。しかし「自分の気力と体力の限界に挑戦してみよう」と考え直して、

再度出発したので。

旅の相棒は、普段、通学などに使っている自転車で、ハンドルの前に買い物かごが付いているタイプのもの。いわゆる「ママチャリ」でした。一日平均約九時間、百キロメートルくらいずつ走りました。夜はキャンプ場など、主に野外で過ごし、「サバイバルシート」というアルミシートにくるまって眠りました。道中では、トラックの風圧で吹き飛ばされて、ガードレールに激突したり、スポークが折れて、車輪が変形したりするなど、大変な出来事にも見舞われたそうです。

しかし、そのピンチの時に、貴重な出会いがありました。けがをした時には、車で通りかかった人が、病院まで平川さんを運び、格安の宿を紹介してくれました。ソーラーカーで旅をする大学生の集団は、自転車を修理してくれました。



「毎日楽しくて充実していた。大変なこともあったけど、少し、自分に自信ができました」と話す平川さん。「かわいい子には旅をさせよ」の格言どおりの試練を経て、一回り大きくなって帰ってきました。

# ひがすーりー

第30回

## 東区地名考(四)

### 福移

区の北東部で石狩川に沿った辺りは、以前、福移と呼ばれていました。この地に初めて、九州の福岡藩士による開拓のくわが入ったのは、一八八二（明治十五年）年。二年後には、福岡藩士・高崎国丸が教師となり寺子屋教育を始め、後に分教場となります。福岡、移住にちなみ「福移分教場」と命名し、これが定着して、福移と呼ばれるようになったようです。



昭和56年に開拓100年を記念して建てられた「福移開拓百年碑」

### 鉄東

区の南西部に位置する鉄東地区は、区内で最も早く市街地が形成されていたところです。開拓当初からの市街地を含み、区内の大部分が農村地帯だったのに比べ、商

工業地域として栄えていました。

JR札幌駅の北側周辺は、線路から北側ということ、その昔「鉄北」と呼ばれていました。その後、石狩街道を境に東を鉄北東部、西を鉄北西部と呼ぶようになり、一九四七（昭和二十二年）には、鉄北東部を縮めて名付けたと考えられる鉄東出張所が設置されました。

### 三角点通

札幌地区を南北に走る幹線道路、三角点通。沿線一帯は、その昔、苗穂村の一部で三角と呼ばれていました。篠路、丘珠、雁来村などの測量に要するため、通りの起点と終点に三角点の標識を置いたのが地名の由来といわれています。また、通りと豊平川に挟まれた地形が、三角であったからという説などもあります。

札幌刑務所付近には、美住の名が付く三つの町内会があります。三角を「ミスミ」と呼んで美住の漢字を当てたもので、この付近の通称名にもなりました。

四回にわたって掲載した地名考は今月で終了します。